

(公) 高崎経済大学

地域政策学部

地域づくり学科

(※2022年度入学者から新カリキュラムとなります)

Q.編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

編入学は短期大学に入学した時から考えていました。最初は、大学受験で第一志望の大学に落ちたことが悔しくてリベンジしたいという理由だけでしたが、短期大学で様々な分野の授業を履修し、研究を深めていく中で「自分の興味ある分野の学びを深めたい」という気持ちも重なり、より編入したいという気持ちが強くなっていきました。

Q.編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生の後期からキャリアデザインⅡが始まり、編入、公務員、一般企業の3クラスに分かれて講義が行われます。2年生の前期にはそれに引き続き、キャリアデザインⅢが開講されます。編入クラスでは大学研究等の編入に関する基礎的な知識から、英語・小論文の対策、志望理由書の作成、そして面接練習、と実践的な対策が行われます。編入試験対策の英語の授業も1年生の後期から2年生の前期まで行われています。

Q.実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

三瓶先生に1年の夏休みから小論文の添削をしていただきました。添削をもらった後書き直しをするという繰り返しを大切にしていました。面接練習の方は、自分の研究をまったく知らない、専門外の先生にもお願いをして（本番では専門外の先生が面接官になる可能性が高いので、専門外の先生にも自分の研究が伝わるように話すため）全7回ほど練習をして本番を迎えました。

Q.編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

一番努力したことは、小論文対策です。私は小論文が苦手だったので、誰よりも早く始めて数をこなさなければという気持ちで、Q3にも書きましたが1年の夏休みから小論文の添削を先生にお願いしていました。また、知識や語彙力をつけるために新聞や論文を読むこと、論点100やAERA等を使って良質な文章に触れることも日頃から意識していました。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

少人数の短大だからこそ、プレゼンテーションやグループディスカッションをする機会が多かったことです。講義を受けるだけの座学だけでなくアクティブラーニングが取り入れられているので、社会に出た時にも役立つ実践的な知識を得られたと思います。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

「いろんな経験をする」ということです。短期大学に入学した時から視野を広げるために「学外の活動にも積極的に参加する」という目標は持っていましたが、この言葉でより「いろんな活動に挑戦してみよう」と思うようになり、そこで行った地域づくりに関する活動がきっかけで地域づくりに興味を持ちました。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①これからの進路に対して不安が大きかったです。

②「絶対に編入したい」という強い気持ちがありました。

③大学受験で第一志望に落ちていることもあり「今回も落ちるのではないか」というネガティブな気持ちでいっぱいでした。

④編入試験を通して先生方や先輩などたくさんの方にお世話になったので、とても感謝しています。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

編入学は決して簡単なことではないので、つらくて心が折れそうになることもあるかと思います。編入学を目指す理由は人それぞれ違いますが、自分なりの強い意志を最後まで貫いてほしいです。自分と向き合ってコツコツ頑張ることも大切ですが、周りの人を頼ることも大切です。つらくなった時は、一人で抱え込まずに周りの人を頼ってみてください。